

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	星野先生を悼む
Author(s)	林, 幸一
Citation	広島大学マネジメント研究 , 21 : 10 - 11
Issue Date	2020-03-26
DOI	
Self DOI	
URL	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00048989
Right	Copyright (c) 2019 by Author
Relation	



星野先生を悼む

広島大学大学院社会科学研究所マネジメント専攻教授 林 幸 一

海外出張で一週間余り大学を空け、事後の手続きのため事務室に立ち寄った。部屋の前には先生の研究室があり灯りは点いていたが、わざわざ不在の挨拶をするほどのこともないとその日は早めに帰宅すべく大学を出た。途中、先生が亡くなられたとの連絡が入った。突然の訃報だった。ここでは先生の著書からその考え方や人柄の一端を示す部分を幾つか記すことで、亡き星野先生を偲ぶこととしたい。

「いかに完全なものではなかろうとも……それを公刊して学界と世間に対して積極的に問題を提示し、批判をあおぐことは、学術的にも実務的にも必要不可欠なことである。安易な公刊には問題はあるものの、研究にかんしても「リスクテイク」でありつづけることは、学術的な進化や進歩にとっても肝要である¹」とされる。先生自身、会計以外の点で「保守主義の原則」に反し、リスクテイクであった。私が世話役をした講演会の前々日、演者の親族にご不幸があり相談したところ、先生を含む複数の教員で講演を乗り切るという判断をされたが、これもそのことを裏付ける出来事のように感じる。

学習法全般について、「財務会計論における教育あるいはそのテキストでは、企業会計原則や計算書類規則の解説がその中心になっている。極端な例だと、たんに企業会計原則などをパラフレーズしただけのテキストや講義も多い。……もっとも重要なのは、財務会計における哲学（考え方）と論理（ロジック）を理解することである。しかし多くの学習者は、会計基準や会計技法の習得や記憶を傾斜しがちである。……基本的な考え方やロジックの習得に力点を置くことは、一見迂遠でも、そのじつもっとも近道な学習法である²」とされる。ノウハウではなく考え方を重視することは、飾らず実質を重視するその人柄に通じるようにも感じる。

また、先生は「教養人」であった。多くの式典等で、本題より雑談の多い挨拶が通例であった。「バレンタインデーとホワイトデーは男女のあいだにおける、とくに女性側からの積極的かつ能動的な働きかけによる「婚姻や婚約への誘導路」のようなものである」、「とくに婚約前の男女関係そしてそれにまつわるイベント、さらにはそれにかんする情報分析においても「擾乱戦術」が用いられることがある。ここでいう擾乱戦術とは……自己に有利な情報のみを開示し、または自己に不利な情報は非開示または粉飾することを意味する。これは、企業会計でいえば「粉飾決算」や「会計情報操作」に該当するものとみなすこともできよう³」とされる。こうした社会現象を研究するスタイルの基礎は、様々な分野に渡る幅広い知識に裏付けられたものであろう。

先生は、永年に渡り教育・研究・大学運営・学会及び社会に貢献してこられた。マネジメント専攻が社会人大学院であり研究者養成のみを目的とする大学院ではないにもかかわらず、数多くの博士号及び修士号取得者（うち6名が大学等の教員）を輩出するなど、多数の優秀な人材を育成してこられた。研究領域は財務会計論及び会計政策論であるが、その成果はポイント制度・粉飾決算・横領とその隠蔽など身近な事例を元に、貨幣価値認識・不正経理・金融危機等の諸問題について、多く研究成果を発表してこられた。社会貢献においては、放送大学広島学習センター、税務大学校広島研修所で財務会計等での集中講義を行うなど、多忙な中において出来得る限りの地域社会の発展並びに地域文化の向上にも寄与されてきた。長年にわたって研究と教育に従事、優れた業績をあげるとともに、大学、国や自治体、産業界に対し

¹ 星野一郎『企業会計におけるリスクマネジメント』（中央経済社・2017）iii頁。

² 2018年11月8日・9日先生の税務大学校広島研修所「財務会計概論」集中講義資料『財務会計のエッセンス』（未定稿）の冒頭の一部。その拡充版は2018年度または2019年度に同文館出版から公刊予定と記されている。

³ 星野一郎「バレンタインデーとホワイトデーをめぐる男女関係の会計分析－日常生活における「おねだり」と「たかり」の構造－」信州大学大学院イノベーション・マネジメント研究14号（2018）27-41頁。

多数の優秀な人材を輩出，大学運営・学会及び社会に貢献するなど，研究教育分野並びに社会の発展に努められた。

大学や学会あるいは各種委員等の多くの公職は，学識・人格だけでなく，他者との高いコミュニケーション能力に培われた信頼関係に負うところが大きかったように感じる。数多くの研究や仕事を切り回していた先生は，これらの仕事を愛し，全身全霊を持って行うことにやり甲斐を持っておられたのだと考える。心よりご冥福をお祈りしたい。